



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年10月31日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社ダスキン

コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 鶴見 明久

TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	85,399	△2.7	4,238	△17.8	5,332	△11.7	2,866	9.2
23年3月期第2四半期	87,800	△2.7	5,155	△20.8	6,036	△16.6	2,624	△17.5

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 2,901百万円 (12.3%) 23年3月期第2四半期 2,582百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	44.34	—
23年3月期第2四半期	39.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	193,047	147,353	75.9
23年3月期	198,876	148,565	74.3

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 146,543百万円 23年3月期 147,740百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,200	△2.9	8,900	△18.6	10,800	△14.4	6,200	18.1	96.28

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P. 4 「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	67,394,823 株	23年3月期	67,394,823 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	2,999,114 株	23年3月期	2,092,494 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	64,648,323 株	23年3月期2Q	66,236,654 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年9月30日、以下「当第2四半期」)の我が国経済は、東日本大震災以降停滞していた生産活動が着実に回復に向かい、景気全体としては持ち直し傾向にありましたが、依然として続く原子力災害や電力供給不足、更には、海外景気の下振れ懸念等の不安要素を抱え、先行き不透明な状況のまま推移しました。また個人消費も、生活防衛意識の高まりにより低水準に留まりました。

このような環境の中、当社は、お客様のご要望に今まで以上に迅速に対応できる体制作りとお客様にとってより便利な仕組み作りを行いつつ、ご要望に適った新商品の販売に注力し、お客様層の拡大に取り組みました。

当第2四半期の業績につきましては、連結売上高は853億99百万円(前年同期比2.7%減)、連結営業利益は42億38百万円(前年同期比17.8%減)、連結経常利益は53億32百万円(前年同期比11.7%減)となりました。連結四半期純利益は、投資有価証券評価損や資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失を計上した前年同期と比べ9.2%増加し、28億66百万円となりました。

a. セグメント毎の状況

(a) クリーニンググループ

清掃関連用具のレンタル及び清掃美化関連の役務サービスを一般ご家庭向けに展開しているホームサービスにおきましては、いつでも気が付いたときにフロアモップでホコリを集めて、置き型式のクリーナー「ダストクリーナー」で吸い取る“新おそうじスタイル”の定着に注力しました。これは、手軽で手間が掛からないだけでなく、節電にもつながる新たな掃除方法として大変好評です。この“新おそうじスタイル”の普及活動と相俟って、4月に西日本から先行してレンタルを開始、8月から全国展開を開始したフロアモップの新商品「LaLa」の売上は順調に増加しました。また、役務サービスも順調に推移し、中でもエアコンクリーニングは、電力供給不足懸念に伴う節電意識の高まりを背景に受注件数が増加しました。更に、4月からは、母の日・敬老の日、お中元・お歳暮といった社会催事や誕生日等のプレゼント需要やイベント等の賞品にもご利用いただける「ダスキン プロのおそうじギフト」(おそうじギフトカード)の販売も開始しました。これらの結果、ホームサービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスは、空間清浄機「デオ」を活用した空間衛生サポートや、フロア衛生サポート、厨房設備の衛生状態を簡単に把握できる「拭き取り検査サービス」をはじめとする厨房衛生等、お客様のご要望をトータルにサポートする提案型営業に注力しつつ、大口・地域チェーン店獲得活動を積極的に行いました。しかしながら、経費削減意識の更なる高まりを受け、主力のマット商品群の売上が減少し、ビジネスサービス全体の売上高は前年同期を下回りました。

その他の事業につきましては、レントオール事業は、自粛ムードによるイベント数減少等の影響を受けたものの、介護関連用品のレンタルは好調に推移し前年同期並みの売上高となった他、ドリンクサービス事業(天然水)は好調でしたが、ユニフォームサービス事業は前年同期の売上高を下回りました。

以上の結果、クリーニンググループ全体の売上高は、573億17百万円(前期比0.5%減)、営業利益は70億19百万円(前期比0.2%減)となりました。

(b) フードグループ

事業開始から41年目に入ったミスタードーナツ事業は、お客様層の拡大を目指して、油で揚げずオープンでじっくり焼いたドーナツ「焼きド」を5月に全国発売しました。更に、夏季限定ドーナツやドリンクの販売、観光地として人気の大阪、京都、沖縄の名産品をモチーフにしたご当地ドーナツを「ミスド味めぐり」と銘打ち売り出す等、バラエティ感を前面に打ち出した演出でお客様層の拡大に取り組みました。また、お客様との接点拡充を図るべく出店にも注力し、6月1日にはキッチンレスのテイクアウト専門店(大阪・北大阪急行電鉄桃山台駅改札前)、9月7日には株式会社モスフードサービスとの共同店舗「MO SDO」2号店(京都河原町通りショップ)をオープンしました。しかしながら、東日本大震災による消費マインドの冷え込み等からくる落ち込みをカバーするには至らず、全体の売上高は前年同期を下回りました。

その他の事業につきましては、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業は、店舗数の増加に伴って売上高が増加しましたが、不採算店を閉鎖し稼働店が減少したカフェデュモンド事業、海鮮丼チェーンを運営する株式会社どんの売上高は、前年同期を下回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は229億70百万円(前期比7.6%減)、営業利益は7億16百万円(前期比57.0%減)となりました。

(c) その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、お客様数は増加しましたが、単価が低下し前年同期並みの売上高に留まりました。

ダスキン共益株式会社（リース事業）は、ミスタードーナツ店舗のPOS機器保守メンテナンスの契約内容を変更したこと等により前年同期の売上高を下回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業につきましては、既存展開地域は順調に推移する中、展開地域の拡大を目指した取り組みにも注力しました。ミスタードーナツ事業におきましては、8月22日に海外6ヵ国目となるマレーシアに1号店「ジャスコ・バンダウタマ店」をオープンしました。

以上の結果、その他の売上高は51億11百万円（前期比4.2%減）、営業利益は1億72百万円（前期比327.2%増）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,930億47百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して58億29百万円減少しております。その要因は、投資有価証券が24億26百万円、現預金が27億88百万円減少したこと等であります。

負債残高は456億93百万円となり、前期末と比較して46億17百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が11億8百万円、買掛金が8億88百万円、災害損失引当金が6億71百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,473億53百万円となり、前期末と比較して12億11百万円減少しております。その要因は、四半期純利益28億66百万円と剰余金の配当26億12百万円との差引により利益剰余金が2億54百万円増加したことに対し、自己株式の取得により14億45百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年10月31日付「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、平成24年3月期通期の業績予想につきましては、平成23年5月13日に公表した業績予想を下表の通り修正しております。

①平成24年3月期 連結業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	179,200	8,900	10,800	6,200	94円94銭
今回発表予想（B）	172,200	8,900	10,800	6,200	96円28銭
増減額（B－A）	△7,000	—	—	—	—
増減率	△3.9	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成23年3月期）	177,320	10,937	12,613	5,248	79円39銭

②平成24年3月期 個別業績予想数値の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	157,500	6,800	9,800	5,600	85円75銭
今回発表予想（B）	150,500	6,800	9,800	5,600	86円96銭
増減額（B－A）	△7,000	—	—	—	—
増減率	△4.4	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成23年3月期）	155,150	8,256	10,826	4,615	69円80銭

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,733	15,944
受取手形及び売掛金	12,353	11,124
リース投資資産	1,864	1,912
有価証券	13,017	13,464
商品及び製品	6,297	7,002
仕掛品	155	254
原材料及び貯蔵品	1,956	1,867
繰延税金資産	2,982	2,570
その他	3,065	2,914
貸倒引当金	△63	△43
流動資産合計	60,364	57,012
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,099	41,083
減価償却累計額	△22,376	△22,835
建物及び構築物(純額)	18,722	18,248
機械装置及び運搬具	21,680	21,574
減価償却累計額	△15,130	△15,312
機械装置及び運搬具(純額)	6,550	6,261
土地	23,818	23,818
建設仮勘定	142	287
その他	12,207	12,183
減価償却累計額	△8,051	△8,387
その他(純額)	4,155	3,796
有形固定資産合計	53,389	52,413
無形固定資産		
のれん	294	289
その他	6,485	7,539
無形固定資産合計	6,779	7,829
投資その他の資産		
投資有価証券	59,955	57,529
長期貸付金	115	111
繰延税金資産	8,417	8,342
差入保証金	8,735	8,476
その他	1,334	1,543
貸倒引当金	△214	△211
投資その他の資産合計	78,343	75,792
固定資産合計	138,512	136,034
資産合計	198,876	193,047

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,322	6,433
1年内返済予定の長期借入金	116	101
未払法人税等	2,651	1,543
賞与引当金	3,542	3,207
ポイント引当金	506	481
災害損失引当金	671	—
資産除去債務	254	245
未払金	6,962	6,663
レンタル品預り保証金	10,792	10,574
その他	4,615	3,285
流動負債合計	37,436	32,537
固定負債		
長期借入金	245	198
退職給付引当金	11,112	11,567
債務保証損失引当金	117	80
資産除去債務	398	382
長期預り保証金	833	856
長期未払金	140	63
負ののれん	17	—
その他	8	7
固定負債合計	12,874	13,155
負債合計	50,311	45,693
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	13,076	13,076
利益剰余金	129,619	129,873
自己株式	△3,301	△4,746
株主資本合計	150,747	149,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,528	△2,539
繰延ヘッジ損益	△1	△17
為替換算調整勘定	△477	△456
その他の包括利益累計額合計	△3,007	△3,013
少数株主持分	825	810
純資産合計	148,565	147,353
負債純資産合計	198,876	193,047

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	87,800	85,399
売上原価	47,991	47,410
売上総利益	39,809	37,989
販売費及び一般管理費	34,653	33,751
営業利益	5,155	4,238
営業外収益		
受取利息	420	446
受取配当金	140	145
設備賃貸料	62	63
受取手数料	151	145
負ののれん償却額	2	17
持分法による投資利益	14	41
営業権譲渡益	27	72
雑収入	267	319
営業外収益合計	1,086	1,250
営業外費用		
支払利息	36	3
為替差損	24	20
賃貸借契約解約損	46	76
雑損失	99	55
営業外費用合計	205	156
経常利益	6,036	5,332
特別利益		
固定資産売却益	6	0
投資有価証券売却益	—	130
負ののれん発生益	—	0
貸倒引当金戻入額	18	24
債務保証損失引当金戻入額	22	—
その他	19	3
特別利益合計	67	158
特別損失		
固定資産売却損	17	4
固定資産廃棄損	117	53
減損損失	20	71
投資有価証券評価損	794	0
災害による損失	—	280
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	—
その他	139	18
特別損失合計	1,581	428
税金等調整前四半期純利益	4,522	5,061
法人税等	1,889	2,167
少数株主損益調整前四半期純利益	2,632	2,894
少数株主利益	8	28
四半期純利益	2,624	2,866

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,632	2,894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	△10
繰延ヘッジ損益	—	△15
為替換算調整勘定	△60	30
持分法適用会社に対する持分相当額	△28	2
その他の包括利益合計	△50	6
四半期包括利益	2,582	2,901
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,597	2,860
少数株主に係る四半期包括利益	△15	40

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	57,611	24,850	5,338	87,800	—	87,800
セグメント間の内部売上高 又は振替高	411	42	1,252	1,705	△1,705	—
計	58,022	24,892	6,590	89,505	△1,705	87,800
セグメント利益	7,032	1,666	40	8,739	△3,584	5,155

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△3,584百万円には、セグメント間取引消去21百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,605百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。
この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べて当第2四半期連結累計期間の「クリーングループ」のセグメント利益は7百万円減少し、「フードグループ」のセグメント利益は9百万円減少しております。
5. 当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より加盟店に対するシステム、機械設備の賃貸に係る収益及び費用を「売上高」及び「売上原価」「販売費及び一般管理費」に含めて計上する方法に変更いたしました。
この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べて当第2四半期連結累計期間の「クリーングループ」の売上高及びセグメント利益はそれぞれ431百万円、248百万円増加し、「フードグループ」の売上高及びセグメント利益はそれぞれ624百万円、481百万円増加し、「その他」のセグメント利益は146百万円減少しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれん金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期 連結累計期間償却額	70	1	0	—	72
当第2四半期 連結会計期間末残高(注)	321	12	13	—	346

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高171百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高115百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	57,317	22,970	5,111	85,399	—	85,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高	437	2	1,191	1,631	△1,631	—
計	57,755	22,973	6,302	87,031	△1,631	85,399
セグメント利益	7,019	716	172	7,908	△3,670	4,238

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△3,670百万円には、セグメント間取引消去△26百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,643百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期 連結累計期間償却額	65	1	1	—	67
当第2四半期 連結会計期間末残高(注)	267	9	11	—	289

- (注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高109百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高116百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。